

# 6人の男に嫁いだ美女

バンダ高原—美しい新婦がいると聞いた。  
ひと目見ようと馬に揺られて行くと、  
“新郎たち”が出迎えてくれた。



野中章弘

1953年 兵庫県生まれ。アジアをフィールドに活字、写真、ビデオによるレポートを続ける。著書に「沈黙と微笑」「粋と絆」など。早稲田大学、東京大学講師。アジアプレス代表。

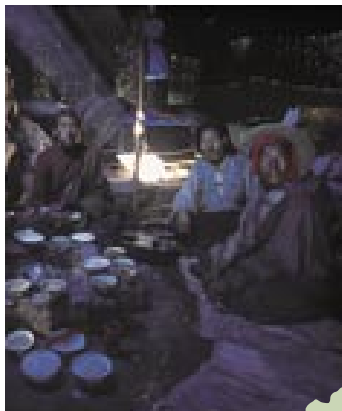
「ある時、ブツダはおっしやった。女たちよ、一歩歩くことにオナラをするか、1カ月に1度生理をするか、どちらかを選びなさい。そして女たちは後者を選んだのです」

遊牧民のテントに入ろうとする通訳の女性をさえぎって、わが運転手のアブラは私たちにこうのたまったのである。ブツダのお言葉というにはいささか下品な物言い、女性に対して失礼な話であるが、要するにアブラは、不浄な生き物である女は他人のテントに立ち入るべからず、と言いたかったらしい。

この日、私たちの目的は、バンダス幫達高原一の美貌」とアブラが太鼓判を押し、花嫁を訪ねること。ポックリポックリ馬の背に揺られながら草原に行く



# 3 バンダ 長江 を行く



どり着いたところであった。  
可憐な花嫁は「ごっ」と見回すとど  
うやらテントの近くでヤク、チベット  
牛の乳を搾っている娘さんがそうらし  
い。レンズを向けるとココロコと笑顔を見  
せる。仕事が一段落したところを見計

こと1時間、私たちはよ  
うやく山のふもとにあ  
る大きな黒テントにた

らつて、「さあ、これから新郎新婦の記念  
撮影」と集合をかければ、カメラの前に  
立ち並んだのは女1人に男4人。うっ！  
勘定が合わない？…… いやいやこれ  
でいいのである。  
ここは一妻多夫の風習が根強く残る  
チベット東部である。新婦のシレッユン  
ツォ(22)さんの夫は、30歳の長男から15  
歳の六男まで計6人。つまり6人の男兄

弟に1人の妻というわけだ。今日、兄弟  
のうち2人は行商に出かけて留守だとい  
う。

「妻をめくってケンカにはならない  
の？」

「いや、みんな仲がよい。財産の分配で  
もめることもないし、セックスも長男か  
ら優先権があり、それさえ守っていれば  
問題は起きない」

農家では夜、妻の寝室の戸口に靴の紐  
がかかっていると、先客ありということ  
でその夫は出直すらしい。部屋に区切り  
のないテントではどうするのかわから  
ない。

子どもができるとう、「お父さん」と呼ば  
れるのは長男だけ。ほかの兄弟は、おじ  
さんになる。ただ誰の子種かは何とな  
くわかるらしく、「えこひいきやいじめな  
どもあるという」。

また妻が弟と仲がよい場合、嫉妬にか  
られた長男は弟を行商にやり、家から遠  
ざけることもある。まあ、やはり人間の  
な葛藤は避けられないらしい。

「それにしても、夫が6人もいると妻  
も大変だなあ……」という私の嘆息を耳  
にしたアブラがまたのたまつた。

「奥さんは幸せだねえ。毎日男を換え  
ることができるといふから」

めでたいのはお前の頭の中だよ、と私  
は小さくつぶやいたことだった。